



野の花を摘んで
作者：岡田万知子さん

大月町
議会だより

令和7年11月1日発行 高知県大月町議会

第122号
9月定例会

まちづくり実現へ

認定

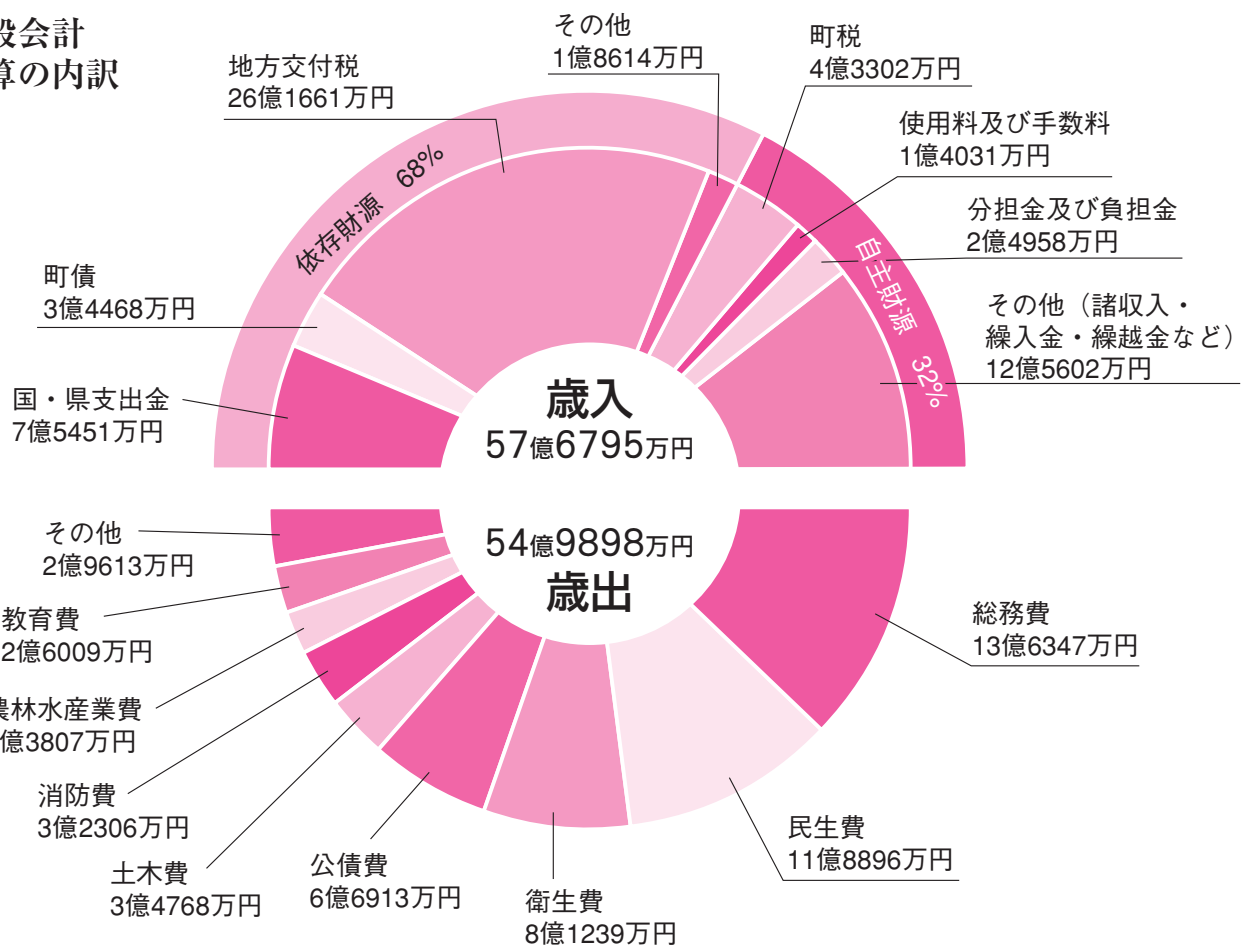
9月定例会

9月定例会は9月4日から9月12日までの9日間の会期で開催しました。

委員会報告2件
報告3件
条例3件
補正予算5件
契約1件
決算認定9件
その他1件
発議2件

9月9日、10日、11日は決算審査を行い、最終日に可決・認定しました。一般質問は6人がたち、行政をただしました。

一般会計 決算の内訳



会 計 名	歳入(千円)		前年度対比 (%)	歳出(千円)		前年度対比 (%)
	令和6年度	令和5年度		令和6年度	令和5年度	
一般会計	5,767,951	5,756,050	0.2	5,498,980	5,377,018	2.3
特別養護老人ホーム特別会計	334,348	330,108	1.3	334,348	330,108	1.3
国民健康保険特別会計	686,191	796,050	△13.8	679,315	774,977	△12.3
介護保険特別会計	878,480	879,015	△0.1	833,408	876,012	△4.9
後期高齢者医療特別会計	106,669	103,216	3.3	103,922	101,211	2.7

※前年度対比(%)は、小数第2位を四捨五入

令和6年度は、こんな事業に取り組みました

商店街等振興計画推進事業 298万円

商工会が主体となって事業を実施。チャレンジショップ、夕涼み祭り、新春マルシェを開催。子どもからお年寄りまで年齢層を問わず多くの方が来場し、弘見地区商店街の活性化に寄与した。

地域おこし協力隊事業 1484万円

都市部の若者が移住し、地域活動を行いながら定着を目指す。令和6年度は3名が起業支援補助を受け、町内に定住し起業するなど、地域で新しい仕事を創出している。

住宅耐震改修事業費 4767万円

町実施の耐震診断及び耐震改修設計を経て耐震改修工事を実施する場合の費用の一部補助
上限：100万円／戸
実施：48件

住宅耐震改修設計補助金 1654万円

耐震診断の結果、倒壊の可能性がある住宅を対象に、耐震改修計画書作成費用の一部を補助
上限：35万円／戸
実施：48件

ブロック塀等耐震対策費 247万円

避難路等に位置する危険性が高いコンクリートブロック塀等の撤去等に係る費用の一部を補助
上限：20万5千円／件
実施：13件

老朽住宅除去事業費 1606万円

基準により老朽住宅と判断され、倒壊による周辺への被害の恐れがあるなどの要件を満たす住宅の除去費用の一部を補助
上限：164万5千円／件
実施：12件

共に乗り越える

こんな取り組みを
実施しました

子育て世帯の負担軽減

5186 万円

- ◆出生祝金 255万円
- ◆乳幼児医療費助成金 300万円
- ◆ひとり親家庭医療助成金 251万円
- ◆児童福祉医療費助成金 676万円
- ◆出産・子育て応援助成金 155万円
- ◆児童手当 3549万円

すべての家庭に減税

9539 万円

- ◆所得税、住民税課税者に対し1人当たり所得税3万円、住民税1万円の定額減税。
- ◆電気・ガス・食料品の価格高騰に対し、非課税世帯1世帯当たり3万円・子ども加算2万円給付。
- ◆令和5年度均等割りのみ課税世帯へ1世帯当たり10万円、18歳以下の児童に1人5万円給付。
- ◆令和6年度住民税非課税世帯または均等割りのみ課税世帯へ1世帯当たり10万円、18歳以下の児童に1人5万円給付。

健康を維持するための補助

1725 万円

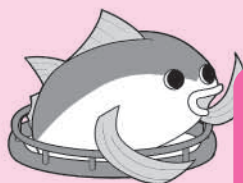
- ◆胃・肺・大腸・子宮・乳がん検診 444万円
- ◆定期予防接種
集団予防（全額公費負担）
個別予防（一部個人負担）

手厚い安心のための補助

1 億 7956 万円

- ◆障害者自立支援給付費 1億5074万円
- ◆老人保護措置事業 2882万円

財政の硬直化どう改善



大月の情報通
マグロくん

知ってほしい 直面する課題

けいじょうしゅうしひりつ

経常収支比率とは

財政構造の硬直度や柔軟性を示す指標として「経常収支比率」があります。経常収支比率は、地方自治体の経常的な収入（地方税、地方交付税、地方譲与税など）に対して、経常的な支出（人件費、扶助費、公債費など）がどの程度充当されているかを示す比率です。

70～80%程度が健全

経常収支比率は、かつて町村では70～80%程度が健全とされてきました。経常収支比率の令和5年度の県内町村平均は、88.8%、令和6年度の大月町は91.4%となり、さらに財政の硬直化が進んでいます。

どう改善していくのか

収入を増やし、使い方を工夫して、町民のためにお金をどう作っていくか大きな課題です。町の財政改革が求められています。

有害鳥獣被害防止

1306万円

- ◆イノシシ・サル・シカ等の捕獲 1193万円
- ◆防護柵設置補助 113万円

漁港修繕等

1960万円

- ◆安満地漁港・橘浦漁港 179万円
- ◆小才角漁港 471万円
- ◆一切防波堤 1310万円

町道維持補修等

2821万円

- ◆町道舗装修繕、草刈り作業
側溝清掃、側溝鋼製蓋、
カーブミラー等



決算 審査

令和7年9月9日から11日までの3日間、決算審査を実施しました。



福祉

予防運動教室委託料

問 活動内容と目指す方向は。

答 ほっとセンターで月1回麻雀教室を開いたところ10名程度の参加がありました。この教室は好評で自主的に集まり楽しんでいます。将来は地区での自主的な活動を目指しています。

特別養護老人ホーム繰入金

問 一般会計から約一億円を繰入れているが、今後の見通しは。

答 今後増えていくと予想されます。

特別養護老人ホーム備品購入費

問 備品購入費の約148万円についての説明を求める。

答 主にパソコンの入れ替えに140万円と備品購入です。

大月病院の入院・外来収益

問 3千万円近く増えている、その要因は。

答 診療報酬の改定と、近隣市町村における病院の閉鎖等が関係していると分析しています。

大月病院の材料費や修繕費

問 前年に比べ高額な経費となった理由は。

答 材料費が前年より33%高騰しているのと、修繕費については高額な機器を毎年計画的に修繕しているためです。



まちづくり

スマート農業推進事業

問 この事業内容と効果は。

答 ラジコン草刈り機を導入したものです。従事者から、大変助かっているとの声をいただいています。

幡多地域森づくり

問 負担金約60万円の効果は。

答 町の方で森林の意向調査や林況調査をしています。その結果を幡多地域森づくりセンターへ共有し、アドバイスや設計などの支援をいただいています。

移住促進事業

問 移住促進事業として約1200万円支出しているが、その効果は。

答 必ずしも移住者数の増に繋がっているとは言えませんが、相談件数から見ると今後も必要な事業であると検証しています。

外商強化業務

問 外商強化業務委託料の費用対効果は。

答 ふるさと振興公社の外商強化として種を蒔いている段階ですので、今後に期待しています。

土佐くろしお鉄道

問 赤字補てんはどれだけか。

答 鉄道経営助成基金負担金約583万円です。



教育

社会教育費

問 見えてきた効果は。

答 「大人の学校」の継続や文化財調査員との繋がりを持つことで、町史編さん作業に繋げることが出ています。

職員研修

問 D55の事業はどんな研修か。

答 大月町が抱える課題、今回は地域資源について、起業人・専門家でチームを組み企画提案を行い、事業採択までを目標にした研修です。



税

公債費

問 公債費償還金の残高は。

答 一般会計と特別会計を合わせた残高は令和6年度末で約66億8千万円です。

徴収した税額

問 租税債権管理機構で徴収した税額は。

答 町民税、国保税を合わせ約465万円、介護保険料、後期高齢者医療保険料を合わせ約96万円、合計約561万円となっています。

不用額

問 民生費の中の社会福祉費の不用額が多いのはなぜか。

答 一時的に医療機関への患者が増加した場合、予算不足を防ぐためです。

条例

全員
賛成

- ◆職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例の制定
仕事と育児の両立支援制度の利用に関する職員の意向確認等
- ◆大月町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定
部分休業の取得パターンの多様化等
- ◆大月町議会議員及び大月町長の選挙における選挙運動用ポスターの作成の公営に関する条例の一部を改正する条例の制定
作成単価の限度額の改正

辺地に係る 総合整備計画

全員
賛成

- ◆樫ノ浦
小型動力ポンプ付積載車購入
事業費 1130万円
(うち辺地対策事業債 1090万円)
- ◆柏 島
津波浸水区域外へ下水処理施設移設
事業費 3000万円
(うち辺地対策事業債 580万円)

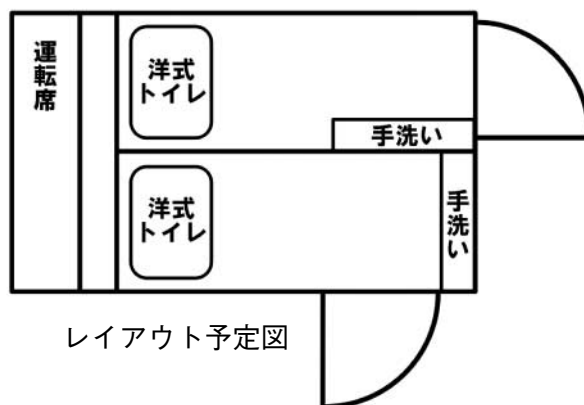


下水処理施設工事の様子

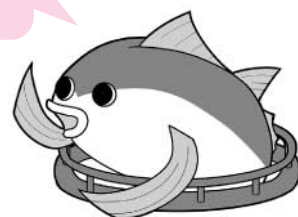
契約

全員
賛成

- ◆令和7年度小型自走式水洗トイレカー購入契約の締結
 - 契約金額
8,866,712円（消費税を含む）
 - 契約の相手方
株式会社特装高知
- ◆町道古満目線落石対策工事請負契約の変更に係る専決処分
 - 今回変更による増額
4,972,000円（消費税を含む）
 - 変更の理由
ロープ伏工の施工範囲を広げる。
電線防護管を設置する。



トイレカーは災害時だけでなく、イベントなどにも使用できるよ。



大月町の情報通 マグロくん

全員
賛成

意見書

米の安定供給、地域医療体制確保の意見書は、中田議員が賛同者を得て提出。

米の安定供給体制の強化を求める意見書

- 1 根本的な米不足の原因を明確にし、将来に向けた需要安定策を講じること。
- 2 農家が安定的に米づくりを継続できるよう、価格保証や所得補償等を行うこと。
- 3 肥料・燃料・資材等の高騰に対する補助を強化すること。

持続可能な地域医療体制確保のための支援等を求める意見書

- 1 令和8年度診療報酬改定に向けて、物価高騰及び人件費の上昇へ適切に対応し、病院経営の安定に資するよう適切な診療報酬の改定を行うこと。
- 2 病院経営の現状を考慮し、地域医療を守るため、診療報酬改定や新たな仕組みの導入が実施されるまでの間、緊急的な財政的支援を実施すること。
- 3 地方における深刻な医療人材不足の解消に向けて、地方の実情を適切に把握し、医師・看護師等の地域偏在の解消と、医師をはじめとした医療人材の確保に向けて支援を行うとともに、実効性のある制度や仕組みを導入すること。

インボイス制度廃止を求める意見書

小規模事業者等の事業存続や日本経済の振興、ひいては国民生活を守るため、インボイス制度の廃止を強く要望する。



病院経営を安定化させ地域医療を守る

意見書は、全て関係省庁等に送付しました。

全員
賛成

9月補正 基金・タンク車購入

一般会計の補正予算は、主に基金積立て、消防タンク車購入、トイレ改修にあてます。

一般会計 2億8276万円

財政調整基金
1億2351万円

消防タンク車等購入
1億910万円

主な
使い道

ほっとセンタートイレ改修
178万円

特別会計

国民健康保険特別会計
688万円

介護保険特別会計
4571万円

給与集中処理特別会計
450万円

後期高齢者医療特別会計
275万円



議会活動報告

9月末時点

総務厚生常任委員会

「福祉の充実をめざす住民主体のまちづくり」をめざし、社協への所管事務調査を含め6回の会合を持ちました。大月町議会にあげられた陳情審査をしました。

産業建設常任委員会

「地域経済の活性化」をめざし、4回の会合を持ちました。四万十ドラマ視察（所管事務調査）や陳情の審査をしました。

議会広報常任委員会

5回の会合をもち、大月町議会だより121号（3月臨時会・6月定例会）を発行しました。

地区懇談会

芝、柏島、頭集、平山、赤泊、大浦、本田、春遠、姫ノ井、安満地、本村、龍ヶ迫、小才角、成畑、泊浦、周防形、長沢のみなさん、ありがとうございました。

龍ヶ迫地区懇談会



議会のあり方検討特別委員会

4回の会合を持ち、ただいま検討中です。

研修会に参加

7月

- ◆高知市で議会広報研修会—内容は、「議会広報の枠組みと戦略的広報」
- ◆高知市で県市町村議会議員研修会—内容は、「地方議会の役割 地方の改革は議会から」

8月

- ◆梶原町で高幡町村議会議長会 議員研修会—内容は、「いつまでも住み続けられる集落づくり」

大月町が大好き

昭和10年、のちに私財を投じお猿公園までの道を整備した中田宏氏の三女として大月町に生まれる。昭和33年に結婚し2人の息子に恵まれ、昭和45年には大月町新庁舎移転と同時に喫茶店を開業。45年間、町内の方々と議員同士が珈琲を飲みながら熱い討論を交わす事も少なくなかった。父が愛した大月が大好きで、大月町の歩みを肌で感じられた事が一番嬉しい。

未来について

議会だよりが前より見やすくなった。毎号の議会だよりが楽しみ。若い方の政治離れ改善の為、もっと情報を発信して欲しい。もっと情熱を感じたい。50年目を目指し健康に気を配りながら見守っていきます。

みんなの広場

大月に生まれて90年

柴田

裕子さん

90歳



生き残りをかけた熱意と信念

西栗倉村に学び大月町に活かす

西栗倉村を視察

村の森林を地域資源として活用し、林業6次化を進め成功している西栗倉村を5月20日に視察した。

合併に揺れる

当時、西栗倉村は村の合併問題で揺れた。しかし、最終的には、「村を残したい」という村長の強い信念で、平成16年に合併離脱を宣言し自立の道を選んだ。

百年の森林構想提唱

村には金もない、何もないと職員は悲観したが、村長は、「村には山がある」と激励。村が存続していくために、平成20年に森林資源を最大限活用する「百年の森林構想」を掲げた。

さまざまな工夫

「上質な田舎」をめざし、所有者が分散して管理されていない私有林を、村が10年間預かり共有の財産として管理するシステム作りと、間伐材を使用した商品開発やマーケティングを行う事業を打ち立てた。

現在までの成果

平成20年から起業したのは50社を超え、年商は3億円を超える事業者もいる。平成20年から令和5年度までに269人が移住し、人口減少率が緩やかになっている。

熱意 信念 共感

これは当時の村長の生き残りをかけた熱意と強い信念に村民の共感が得られた結果である。

る。また村を支える重大事業に対して、課を超えて全員が共有するシステムを立ち上げ20年以上継続していることは驚きである。

働かない者は去れ

「自治体は中小企業だ、自治体が最終就職ではない。働かないものは去れ」。村長の言葉として紹介された。

大月町に活かす

大月町も積極的に学ぶ必要がある。「住みたい・住んでよかった町」とするためにどのように進めるのか。町民に明確に示し、職員一丸となって取り組む体制づくりが急務。2050年の予想人口1800人が現実のものとなつてからでは遅い。



研修を受ける大月町議員。説明を担当された40代の職員も明朗闊達で自信にあふれていたのが印象的であった。

新たな産業振興・観光拠点

道の駅リニューアル計画は 基本コンセプトを共有し取り組む／町長



安岡 利治 議員



新たな道の駅を目指して

問 道の駅リニューアルを表明されて、6ヶ月が経過している。この間の進捗具合はどのようなになっているか。

岡田町長 リニューアル計画については、担当課と協議を行い庁内会議のメンバーを中心に検討会を立ち上げ、県の事業を活用してアドバイザーを招聘し、計画に係る基本コンセプトの取りまとめるよう準備を進めています。

問 道の駅リニューアル計画がふるさと振興公社より提出されたと聞くが、その内容は。

岡田町長 概要につきましては、一階部分を増築し、売店を集約し、イートインの食堂を導入。二階を地域の交流の場として活用できる提案がされています。

問 ふるさと振興公社の組織改編が、昨年度末に行われたと聞く。その内容は。

岡田町長 地域産業・地域経済の発展と活性化を目的とする重要な組織であります。更なる公社の発展には、若い人材の活用や民間からの人材招聘など、公社の経営改善が図られるよう理事会において今回の思い切った人事刷新が打ち出されました。

問 ふれあいパーク大月再編に当たって、大月町は指定管理者として、ふるさと振興公社へどのような取り組みを求めるか。

岡田町長 条例では、町民の近代的な社会環境の改善向上の為の事業実施をすることとなっています。地産外商の強化、ふるさと納税返礼品の開発及び提案等、本町の地域産業の中核となる取り組みを期待しています。

防災減災対策

地震臨時情報への対応は

一つ一つを

検討して行く／町長



地震臨時情報

問 地震臨時情報が発表され事前避難対象地区の方が、1週間程度避難すると思うが、その場合の受け入れ体制などの備えは出来ているか。

岡田町長 指定避難所6か所で、避難対象者全員の受け入れはできません。その為、避難所または浸水想定区域

以外の知人宅等へ、避難が推奨されています。災害時の避難とは異なり、ライフラインが稼働していると想定されるので、必要最低限の物は各自で準備することを基本に考えています。今後は、各種計画の見直しに合わせて対応を検討して行きます。



中岡 巖 議員

観光振興

教育旅行の受入れ体制を 関係機関と情報を共有する／町長

岡田町長 近年における本町の受け入れ数を聞く。
岡田町長 本町が直接の窓口となつて受け入れているわけではありませんが、令和3年度以降、令和7年度の現時点までに13校316名となっています。

岡田町長 幡多広域観光協議会が、教育旅行として地域の農林水産業に触れることのできる田舎暮らし体験型修学旅行の受け入れの募集を行っている。非常に需要も高いようだ。本町も観光協会などを介し住民や宿泊業者が参画できるように、積極的に促してはどうか。



関係団体との連携

岡田町長 幡多広域観光協議会も、民泊でできる家庭を増やしたい意向があるようです。本町の観光協会と連携し、町内の宿泊事業者に配慮しながら、進めていかなければならないと考えています。

岡田町長 非常に良いアイデアだと思います。一度、柏島地区の方へ投げかけ、慎重に判断するようにします。



自主財源の確保を

岡田町長 貴重な自主財源確保の手段の1つとして、ふるさと納税が挙げられる。近隣市町村では納税額を増やしていくために、民間企業へ委託先を変更している動きが活発になってきている。財政難の本町において、民間企業へ委託先を変更し、納税額を増やしていく考えはないか。

岡田町長 ふるさと納税業務を行っている民間企業は多数あることから、情報収集を行う上で慎重に判断する必要があると考えています。本町は、将来のハード面整備について大きな課題を抱えており、今後多額の投資的予算が求められますので、貴重な自主財源の確保に向け協議・検討を進めていきます。

ふるさと納税業務

民間企業へ委託先変更は

慎重に判断／町長

命を守ること

救命胴衣の備えを 有効な持ち物／町長

岡田町長 南海トラフ地震など、有事の際に少しでも命を守る可能性を高める手段の1つとして救命胴衣の導入は。
岡田町長 救命胴衣は、命を守る手段の1つとして有効ですので、国・県の補助などがあれば、活用していきたいと考えています。
また、救命胴衣が避難時に命を守る有効な持ち物の1つとして、今後広報等で周知を図りたいと思います。

防災・減災対策

時間がかかりすぎではないか 協議を重ね進める／町長



米谷 勝市 議員

問 孤立想定地区や観光拠点への備蓄品の早期ローリングストックでの分配を3月定例会で提案した。この件について新たにではなく早期ローリングストック案であれば検討の余地があると答弁があった。

問 3月議会定例会で一般質問した件について再度の質問。新たな被害想定が出されて半年が経過した。3月当初は、まだ情報が入っていないとの答弁だったが、新たな被害想定を踏まえ、事前復興計画の進捗状況は。

大野総務課長 事前復興計画は今年度に各地区のたたき台、令和8年度に復興計画の案の作成や庁内の体制の構築、令和9年度に計画の取りまとめや体制の実施の取り組みを予定しています。

た。半年が経過し現状どのような検討が行われているか。

岡田町長 孤立想定地区には、分散備蓄を検討する考えはありますが、保管場所やその後の体制など、例えば備蓄品が期限切れになった際の処分など、地区との協議が進んでいません。

問 地区との協議はどのくらいの期間で完了する予定か。

岡田町長 要望があった地区から行い、全く要望がない地区は状況を見て判断します。



ローリングストックで備えを

観光振興

新たな問題、違法駐車対策は

警察巡回を増やしてもらおう／町長

問 8月14日、柏島の大型駐車場が満車になり入庫待ちの渋滞が竜ヶ浜キャンプ場手前まで出来た。ゴールデンウィークやお盆の帰省時期と観光シーズンが相まって毎年多くの方で賑わうが、地区の方々だけでは限界を迎えている。その現状をどれくらい把握しているか。また、今後どのような形で対応を考えているか。

岡田町長 担当課が状況を確認しました。桜西園地内の大月アウトドアフィールドKASHIHASHIを整備し、桜西海岸の魅力を発信することで、観光客の柏島一極集中を回避する取り組みを行っています。来年以降の対応として、道の駅等で柏島の渋滞状況を看板等によりアナウンスする予定です。

問 近年、観光客の増加により、橋の上に駐車し写真を撮ったり、サルを見るためにカーブの真ん中に駐車したり、危険な違法駐車が激増している。重大事故になる前に対応を求める。

岡田町長 警察へ巡回パトロール等の協力要請をし、場合によっては回数を増やしてもらう対応を取っていきたいと考えています。



危険が伴う違法駐車



新谷 伸 議員

避難所設備

被災者の権利保護を 新基準スペース確保に努力／町長

問 政府は自治体向け避難所運営指針を改定し、国際基準を新たに取り入れ、1人当たり3・5平方メートルの占有スペースと災害発生初期段階で50人につき1基のトイレを用意するよう明記。追加整備を含め、避難所占有スペースの状況はどうなっているのか。

岡田町長 本町の避難所への想定避難者数は1800人となっています。高知県が推計した想定避難者数を基に1人当たり3平方メートルで、旧基準でのスペース確保はできている状況です。



避難所の大月小学校

新基準でのスペースを確保できるよう、本計画も含めた各種見直しを進める予定としています。トイレに関しても、今年度整備予定のトイレカー、備蓄槽型トイレ等を始め徐々にですが、整備を進めています。



補助金対象家電

問 令和5年3月、本町はゼロカーボンシティ宣言をし、昨年度省エネ家電、冷蔵庫・エアコンに対して補助金制度を設けた。計画に對しての達成率は。

岡田町長 令和6年度より、地球温暖化防止対策の一環として省エネ家電製品に買い替える町民の皆様に対する補助制度・省エネ家電代替費補助金を創設し、ゼロカーボンシティの実現に向けて取り組みを行っています。6年度実績は、エアコンの買替123基、冷蔵庫63基、計186基の補助を実施し、省エネ家電買替補助金を活用したCO2削減量は、21794キロのうちエ

アコン10843キロ、冷蔵庫10951キロとなっています。計画に對する達成率は、大月町地球温暖化対策実行計画の基準年度2023年度家庭部門のCO2の排出量1153万キロに對し約0・02パーセントの削減になっています。

ゼロカーボン ゼロカーボン達成を CO2削減に努力／町長

問 大体達成している認識でいいのか。

岡田町長 まだです。2030年、2050年とありますので、その対応までにはまだ達していませんが、2030年、2050年に向けて対応していきたいと考えています。

協力隊制度

ビジョンを持って募集すべき

定着率向上を目指し進める／町長



問 協力隊制度は大月町の1つの歯車として町がビジョンをもって募集をするべき。大月町が持続可能なまちづくりのための、募集に繋げていくべきではないか。

岡田町長 大月町ではこの状況を、協力隊の課題としてとらえ、今年度より地域おこし協力隊における移住定住プロモーション事業を展開しています。その事業の中で検証を行いながら、定着率の向上を目指した取り組みを進めているところです。

問 これまでの10年間で29名（内現役6名）の協力隊員を受け入れてきたが、3年の任期満了を待たずして、半数以上の方が途中退任している。他の自治体に比べ突出しているように思うが、この件に



協力隊活躍の場を

関しての検証はできているのか。

岡田町長 途中退任となった12名の中には、任期途中で起業をするなどして、町内に定住した方も3名います。それ以外の方については、様々な理由により退任となった経緯がありますが、その中には協力隊の他に新たな目標ができたなどのミスマッチが発生したと推測されるものもあります。

財政計画

健全化につながる財政計画とは

取捨選択等、健全化に努める／町長

問 新規事業等、各課から出てきた当初予算というものは、住民生活と密着している関係上、どうやってこれからその財政状況を精査していくのか。

岡田町長 ふるさと納税等、町の貴重な自主財源を獲得し歳入の確保をしていきます。また、歳出におきましても、さらに優先順位や、費用対効果などを再度検証する中で、取捨選択等、していかねば、財政の健全化、歳出の削減というものは行えるものではないと考えています。

問 健全化に繋がる財政計画とは、予算の何を切り詰めてのことか。また、今ある様々な助成や補助金の見直しは考えているのか。

岡田町長 各課のヒアリングを行い、事業の成果などを聞き取りながら、歳出の縮減に取り組んできたところで

何を切り詰めるのかという具体的などころについては、現時点でお答えをすることは難しいわけですが、令和8年度では、補助金等についても一定見直しをする必要があり、さらに予算、歳出の縮減に取り組んでいかねばならないと考えています。



賑わいのある町づくり



浦木 秀雄 議員

訪問介護

介護体制再構築を 連携の強化に努める／町長

問 訪問看護介護体制を持続可能な形で再構築する提案の評価は。

岡田町長 ご提案ありがとうございます。

小さな町のメリットである顔の見える関係性を活かした情報共有に加えて、今後の大月町の医療・介護体制につきまして、ご提案のあった地域連携の強化やICTの活用促進などのご意見も参考としながら、地域の実情に即した連携の強化に努めていきたいと考えています。



地域連携の強化が求められる

地域振興

キビナゴ等加工産業を

実情に即して実施／町長

問 大月町産キビナゴ・いわしを活用した地域加工産業の振興提案をどう受け止めるか。

岡田町長 地域振興の中で、貴重なご提案をしていただき、ありがとうございます。

本町の豊かな海洋資源を活かした漁業者の所得安定や雇用創出、地域経済の発展のための地域内での協働の取り

組みや観光との連携など、議員の地域振興・産業振興を何とかしたいという熱い思いが伝わってきました。

問 地域加工産業の振興を今後どのように取り組んでいくのか。

岡田町長 議員の提案があつたすくも湾漁協・商工会・NPO・試験場、そういった団体とも協力体制をいただき、協議しながら、できるものから実情に即した産業振興事業の実施に努めていきたいと考えています。

課題克服

3対策の具体化を

国・県の積極的活用／町長

問 人口減少対策は。

岡田町長 子育て世帯への切れ目のない支援や、移住・定住促進に加え、高知県人口減少対策総合交付金を活用した34歳以下の人口の増、婚姻数の増、出生数の増など、高知県と連携して様々な事業展開を行い、人口減少対策を進めていきたいと考えています。

問 地域経済対策は。

岡田町長 事業継承を含め、後継者・担い手等の人材の確保・育成を経済対策の柱として取り組んでいきます。

問 地震対策は。

岡田町長 地下備蓄槽型トイレの設置、防災井戸の設置などに取り組んでいく予定です。



加工産業の振興が求められる

目指せ 100年 事業

まちのあの人、こんにちは
こんにちは



柏島 はやぶさ水産 橋本 しょうた 昇大 さん

父の無念

中学卒業後、私は都会にあこがれ、10年ほど大阪に出ていました。しかし、地元を離れると、私が7歳の時に世を去った父のことを思い出すようになりました。父は「はやぶさ水産」を立ち上げ、37歳の若さでこの世を去ったのです。父の無念を思いました。

祖父母の苦勞

父だけではありません。祖父母は、父の残した「はやぶさ水産」を軌道に乗せようと懸命に働きました。朝早く沖に出て、生け簀に飼っている鯛やブリに餌をやるのです。当時は生エサをやっていたのでその苦勞は図り知れませんでした。

バトンはお前に託す

私は都会に見切りをつけ、25歳の時に柏島に帰ってきました。祖父母は非常に喜んでくれました。「バトンはお前に託す」祖父母の無言の言葉です。

真鯛に着目

私は真鯛に着目しました。人手がかからず、自動で餌の管理ができるようになったからです。労働者不足を解消するため、東京やインドネシア

からも雇い入れました。真鯛の小割は100基にもなりました。

強い決意

「職員一丸となって、日本に誇れる真鯛のブランド化を目指しています。この事業を、柏島で100年続けたい」と橋本さんは強い決意を語ってくれました。

この若者の取り組みに熱い視線を送りたいと思います。

(取材 浦木秀雄)



朝5時、鯛の出荷に取り組む

編集後記

9月に入り、セミの合唱から秋の優しい虫の声に変わってきました。

9月議会が終了し、議員は各委員会、地区懇談会で皆さんの声を聞き大月町の課題に取り組もうと活動中です。

議会では決算審査と6名の一般質問が展開されました。

わからない言葉も多々ありますが、皆さんが分かりやすく読んで楽しい議会だよりをお届け出来ればと思っています。

(松田照代)

編集委員

委員長 浦木 秀雄
副委員長 依岡 一生
委員 米谷 勝市
笹木 章弘
松田 照代

